

第46号

発行/社会福祉法人 素心会
責任者/事務局長 高瀬 尚人
〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪 39 番地 1
TEL.0463-71-1255
レイアウト・印刷 貴峯社ワークピア



製パン作業について

素心デイセンター 七田 岳彦

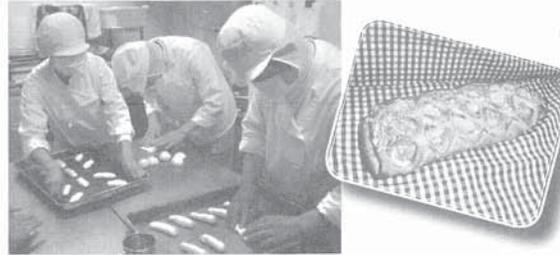
素心学院の日中活動として始まったパン作業ですが、デイセンターの就労Bが作業を引き継いでから二年あまりが経ちました。現在利用者二人職員二人の五人で活動しています。

毎日、日替わりで食パンやロールパンを始め、あんぱんやカレーパンなど色々な種類の菓子パンを焼いて法人職員に向けて販売するほかに毎週二回の(株)ニチタンへの食パンの納品(これは素心学院の皆さんの朝食になっていきます)、納涼祭や即売会での販売を中心に活動しています。

作業中はパン生地を既定の量に分割する人、分割した生地を丸めて成形する人など利用者それぞれの適性にあわせて作業内容を設定して楽しみながら取り組めるように配慮していますが、即売会など行事で販売するときは焼きあげるパンの種類や数も多く時間に追われてしまうことも...それでも、できあがったパンを見ている皆さんのうれしそうな表情はとても輝いています。

このように楽しく、また時に忙しく活動しているパン作業ですが、もっとより多くの皆さんに利用していただくために製品に関するアンケートを実施し、その結果を基に販売メニューの見直しを行うことで今後の活動をより充実したものにするため日々奮闘してまいります。

がんばるぞー!!



おしん 虫窪24番地

心創展が終わった。担当している中高生の作品も好評だったと聞く。

書道作品についてはほぼ全員がそろった。ほとんど介助なしに書かれたもので、純然たる子供達の作品と言える。それが隣の展示スペースにいた書道関係者に評価されたのだからうれし。

絵や陶芸に関しては見た人の反応が違い、おもしろかった。子供達の好きなものに対するこだわりやアイデアをおもしろがってくれる人、色遣いが奇麗だと言ってくれる人、作品によっては怖いのは苦手で目を背ける人もいた。

書道・絵画・陶芸いずれも作品本位の評価してもらえたいように思う。

子供達の才能に助けられて駆け足で臨んだ心創展でその才能を外部の人々が評価してくれた。また一つうれしい貴重な体験をした。

地域支援センターそしん
柑柳橋 卓也

後援会会員募集

- 会費は個人一口、年1,000円から法人・団体一口、年10,000円から
- 会員には、新聞「そしん」をお送りします。
- 行事のご案内などをします。

会費の納入先

銀行振込は
中南信用金庫国府支店
014-0139723
郵便振替はどこの郵便局でも
00270-0-19507です。

口座名は
社会福祉法人素心会後援会
会長 鈴野七郎

※新しく会員になる方は
ご住所を電話等でお知らせ
いただくようお願いいたします。

事務局
〒259-0103
神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1
素心会後援会
TEL.0463-71-1255
FAX.0463-73-0009

素心会事業所アドレス

素心学院	神奈川県中郡大磯町虫窪 39-1	TEL. 0463 (71) 1255	FAX. 0463 (73) 0009
素心デイセンター	神奈川県中郡大磯町虫窪 18-1	TEL. 0463 (71) 1256	FAX. 0463 (71) 1284
さざんがホーム	神奈川県中郡大磯町国府本郷 1308	TEL. 0463 (61) 1519	FAX. 0463 (61) 1519
かもめホーム	神奈川県中郡大磯町大磯 1370-23 コープKY2F	TEL. 0463 (61) 5404	FAX. 0463 (61) 5404
つばきホーム	神奈川県中郡大磯町国府新郷 482-1	TEL. 0463 (71) 0990	FAX. 0463 (71) 0990
シーベルホーム	神奈川県中郡大磯町大磯 2232	TEL. 0463 (61) 5281	FAX. 0463 (61) 5281
地域支援センターそしん	神奈川県中郡大磯町虫窪 18-1	TEL. 0463 (70) 3577	FAX. 0463 (72) 2577

今年の1月に大磯町町内駅伝に参加した。直前になって慌てて練習をしたのだが、結果は下から数えてすぐの順位だった。体力の低下、日々の積み重ねの大切さを痛感させられた。2度と悔しい思いをしないよう。

来年こそは良い結果を!!

素心デイセンター 小清水俊介

事務局総務課 伊佐友志

●第二十回評議員会
平成二十三年十二月十八日(土)

- 一 就業規則の一部改正を承認。
- 二 非常勤職員就業規則の一部改正を承認。
- 三 育児・介護休業規程の一部改正を承認。
- 四 マイクロバスの購入及び車種の選定について承認。
- 五 平成二十二年第一次補正予算を承認。

その他、異指導監査及び実地指導の結果及び改正障害者自立支援法について報告した。

●第一五八回理事会
平成二十三年十二月十八日(土)

一 五号議案及び報告事項まで評議員会と同じ。

●第二十一回評議員会
平成二十三年三月二十六日(土)

- 一 給与規程の一部改正を承認。
- 二 非常勤職員給与規程の一部改正を承認。
- 三 賃金改善手当支給規程の一部改正を承認。
- 四 平成二十三年度事業計画を承認。

●第一五九回理事会
平成二十三年三月二十六日(土)

一 六号議案及び報告事項まで評議員会と同じ。

- 五 平成二十三年度予算を承認。
- 六 所長への昇任を承認。

その他、東日本大震災に伴う対応と今後の課題について報告した。

所属長の昇任

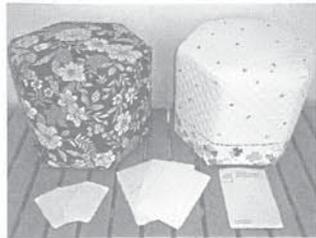
平成二十三年四月一日付で、浅見茂が素心デイセンター所長に昇任されました。

引き続き、よろしくお祈りいたします。

編集後記

雑草のスキナはやっかいである。油断すると、すぐ伸びてしまう。野菜作りは雑草との戦いである。この記事が載るころには戦いに勝利し、フライドポテトに枝豆で一杯やっていることであろう。

待つてろよスキナ。
地域支援センターそしん 西垣宏和



牛乳パック再利用製品

素心学院 小林 雪友
(元 素心デイセンター)

素心デイセンターでは、9部屋作業室がある中で、③の部屋にて自主製品を作っている。

作っているものは、牛乳パックを再利用し、手すきのはがきと名刺・スツールを制作している。

まずは牛乳パックを回収する。「コープかながわ大磯店」に依頼し、毎週月曜日に回収している。

手すきのはがきと名刺は、牛乳パックの接着面を除いた部分を切り取り、圧力鍋で柔らかくし、ビニールをはがしパルプを乾燥する。

その後パルプを細かくちぎり、ミキサーにかけて更に細かくしすき込み乾燥させ完成となる。スツールは、牛乳パックを三角柱に形成したものを24個組み合わせ、六角柱にする。その中にまるめた新聞紙を詰め、ふたをする。まわりの布を貼ることは、ポラントニアの保護者の方が難い、完成となる。



切り、ビニールはがし、ちぎり、すき込み、新聞紙切り、新聞紙まるめ、新聞紙つめ等担当し、毎日楽しく作業を行っている。ちなみに、手すきのはがきは1セット3枚で100円、手すき名刺は1セット105枚で2,000円、スツールは1個700円にて販売している。皆さま、是非是非お買い上げください。お電話、待ってます。

素心会 自主製品作業について

木工製品

素心学院 望月 信史

平成23年1月27日～2月1日に平塚市民プラザで「障がい者による作品展示即売会」が開催された。平塚市・大磯町の障がい者施設、作業所が参加し多くの作品が展示されにぎわった。

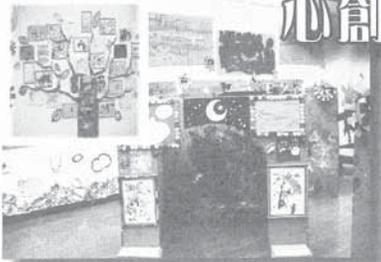
1月31日、木工製品を製作する重久さんと橋本さんとともに販売の手伝いに出かけた。少し照れくさそうに「いらっしゃいませ」、自分の作品が売れ、満面の笑みで「ありがとうございます」と声を出す様子に私は自然と笑顔をもらっていた。実際に自分の作品が売れること、お客様と対話をする経験を通し、やりがいを感じて欲しい。それが私たちの意図するところであった。



2月の利用者の会で重久さんと橋本さんは市民プラザでの活動を報告し緊張した様子だったが、堂々と自信に満ちた表情だった。今後も沢山の販売機会を利用者に提供していきたい。そして、利用者と共にチャレンジしていきたい。



心創展



地域支援センターそしん 熊澤 貴弘

「心創展」について

今回で19回目となる心創展。思い起こせば昨年の夏ごろより少しずつ制作を進めてきた。その結果今回も素晴らしい作品の数々を展示することができ、素心会の関係者をはじめたくさんの方々が見学にみえた。会場は今回も平塚市美術館内の市民アートギャラリーで展示スペースが広くなったのを気づかれたであろうか。作品の搬入時、広すぎると感じた空間は数時間後には個性的な作品で埋まっていた。

例年出展作品は絵画、陶芸

書道の作品が主だが、今回はそれに加えて刺しゅう、折紙、段ボールやパソコンで描かれた作品など型にはまらない自由な発想で制作されたものも展示した。そのため会場内は作品展のような雰囲気からは脱した空間となった。順路は無くどのような見回したらよいか迷った方もいただろう。そんな自由な空間の中に展示されている作品に想いをはせると、作者の顔が脳裏に浮かんでくる。繊細だったり優しい雰囲気を感じさせていたり、エネルギーが溢れていた。不思議と作者が持っている雰囲気がある。これからは彼らの個性をたくさんの人々に伝える場として開催を継続していきたいと思う。利用者自身を表現する素晴らしい作品を通して自身を表現する素晴らしい作品を感じることが出来る機会になることを願う。



寄贈報告

平成23年3月、素心会後援会から素心会へイベント用テント2張りの寄贈がありました。ちょうど新しいものを何張りか必要と考えていた折ですので、寄贈いただき心から感謝しています。2張りのテントは、簡単に設置、設営できるタイプであり、持ち運びも便利で強風に負けないよう、重りもついています。

素心会では、例年各事業所での行事、納涼祭等様々なイベントを開催していますが、毎年不足のテントは他の事業所、学校からいくつか借りていました。地域の行事等でも有意義に活用させていただくことをお約束いたします。左の写真をごらんください。

以上紙面を以ってご報告させていただきます。

事務局 総務課 瀬戸 洋平



ありがとうございます



二〇一一年三月二十五日、日本財団より一四九万円の助成をいただき「日産セレナ」を購入いたしました。

また同じく二〇一一年三月二十四日財団法人中央競馬馬主協会福祉財団より三九五万円の助成をいただき「三菱ローザ・二人乗りマイクローバス」を購入いたしました。

配慮の行き届いたヒカピカの新車を目を輝かせた利用者に乗せて、外出に送迎に今日も活躍しています。

ありがとうございます。素心学院 長谷川 洋之

10年以上勤務者に聞いた私の今と昔

坂本 秋枝

浦野 和夫

「私の今と昔」

昭和六十二年七月、古新聞が天井まで積まれた作業棟の光景に驚いていると、満面笑顔の利用者さんが手を引いて理事長室に案内してくれました。二十三年前の素心学院は現在のように広くて清潔感がある建物ではありませんでしたが、暖かい雰囲気施設の感じました。

女子職員はほとんどが独身でしたが、やがて結婚・出産という人生の大きな節目を迎えるという時期でした。

当時四歳でよく遊んでもらった娘も、一児の母となりました。



素心家族として、それぞれの人生を垣間見ながら泣いたり、笑ったりの毎日ですが、「いい仲間と出会ったなあ」という思いでいっぱいです。利用者さんにも「いい職員に出会ったなあ」と言っていたらどうしよう、笑顔忘れず努力をしてみたいです。



素心学院



私が学院に勤め始めたのは37歳のとき、平成3年8月1日からです。そのころの私は、バイクの免許をとったばかりで、400ccのバイクで通勤し、覚えたてのスキーを毎週末日帰りで行き、誘われるままに登山やテニスをやる、そんな活動的な日々を過ごしていました。

あれから20年が経ち、職場も職員も大きく変わり、私はと云うと、休みの日はパソコンカテレビで過ごすおじさんになっていきます。

素心デイセンター

鈴木 淳也



昔の自分は当たり前だが若かった。当時当直があつて一晩眠らなくてもそのまま車に乗りスキー場へ行き、気持ちよく滑って帰った。サッカーの試合後、勤務なんてこともあつた。今ではとても考えられない。ちよつとでも無理したら体が悲鳴を上げている。キビキビ動けたあのころに戻りたい。

素心デイセンター

小野田 俊樹

デイセンターに勤めて11年になります。心持ちは勤め始めたころと、さほど変わりません。いつも、ハラハラ、ドキドキ、ワクワクしながら勤めさせていたでいます。勤める年数が増えるにつれ、ひとつだけ気をつけていることがあります。それは驕りです。ペテランになればなるほど驕ってしまうことが多々あります。

今後も、驕らないように、驕りそうになった時、アドバイスをしてくれる同僚、上司の声を素直に聞ける自分でありたいと思っております。



地域支援センターそしん

高山 和宏



素心会の利用者さんとかかわり数十年が経ちました。利用者さんは私が困っているときや寂しいときでも気を使わずに接してくれます。時には笑わせてもらっています。思い出すと楽しいことがたくさんあります。

そんな利用者の皆さんのおかげで今まで働き続けることができたと思っています。感謝しています。お互い歳をとりましたが健康で元気に過ごせると良いですね。これからもよろしくお願ひします。

実は三度目

私は三十八年前、二十代半ばで素心学院児童部に入職し七年で退職、その数年後恥ずかしげもなく出戻り、またまた七年後



地域支援センターそしん

佐伯 道夫

退職。他法人で二十年近く働き三年前に定年退職。路頭に迷うところを再度素心学院に拾っていただきました。

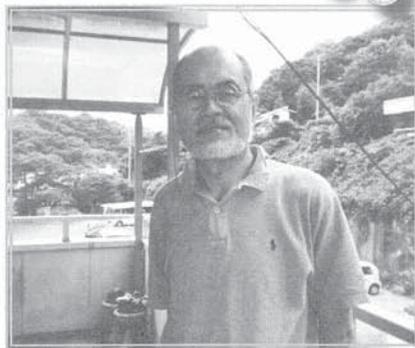
三度目の就職で女関に入ると利用者の何人かから「旅行に行つたね」、「仕事したね」等声をかけられました。言葉のない方も近寄って来てくれましたが、どんなことを思い出してくれたのでしょうか。

若いころの私は相当な未熟者で彼らともいふんやんやんがありました。それでも少しづつ振りかへつてお互いに笑顔で楽しく

たことを思い出せたのは幸せでした。

初就職からもう四十年近く経ちます。彼らも私も若かったのです。当時の写真を見ると、彼らの方がずっと若さを保っているようです。でもその間の過ごし方を考えると複雑な思いもあります。

今回、新たに出会った児童や利用者の方々も含めて二十年後(?)に、「今」をどのように思い出すのでしょうか。このような巡り合わせに感謝しつつ、楽しみにしています。



グループホームのイベント

地域支援センターそしん

高山 和宏



の温泉で宴会、カラオケを行う旅行を企画することとしました。

そこで平成22年度のホーム旅行は12月5日(日)〜6日(月)の日程で河口湖方面へ出かけてきました。ホテルは目の前が湖であり写真を撮ったり、散歩をしたりまた温泉に入りゆつくり過ごしています。そして宴会です。もつと歌をうたいたい人、もつと踊りたい人達が宴会の終りを盛りながらも楽しくにぎやかな時を過ごしています。宴会は大騒ぎですごいんです。

皆さんがホームの全体旅行は、数年前まで北海道や九州等遠方まで出かけていましたが、利用者の高齢化等により長距離の移動が難しい方が出てきています。そこで全体での遠方への旅行について利用者に見直しを行ってきました。結果1年に1度は全員で旅行に行きたい、宴会でカラオケをしたいという利用者からの希望をふまえて、移動の楽な観光バスを利用して近場

現在ホームは大磯町内に4か所あります。各ホーム間はそれぞれ車で10分離れた距離にある関係で利用者同士久しぶりに会う方もいて「元氣だったか?」等再開を喜ぶ会話を聞かれました。また久しぶりに会ったのにけんかをしている人もいます。ただお互い気を使わない利用者さん達の関係をうらやましく思います。年に一度の全体旅行ですが今後も皆が健康で全員そろって旅行に行けることを願っています。



地域で暮らす利用者さんの様子

ます。

地域での生活と言いますが、何も特別なことはなく、普通の生活パターンです。しかしこの気を使わず生活できる環境を利用者の皆さんは望んでいると感じています。この生活にこれからも続くよう日々の生活にかかわれたらと思います。



皆さんがホームでは現在28名の利用者さんが大磯町内で生活しています。生活の様子としてはごく一般的な家庭と全く同じです。平日の朝は通所施設や就労先へ通う準備等にぎやがです。時には出勤を渋る方がいたり、なかなか起きることのできない方がいたり大騒ぎです。夜は、就労先等から戻りゆつくりお風呂に入る人(入浴を拒む方もいます)、や夕食時に仕事の愚痴を宿直者にこぼす人等それぞれのペースで過ごしています。休日は朝からのんびりとした休みの雰囲気が出ています。朝食が済むと買い物に出る人、再度布団に入り眠る人等それぞれ自由に過ごしてい



家族へんりー

素心学院

帰ってくるたびに思い出すが、葉子が仏壇に手を合わせていることが何よりの救いかもしれない。

帰宅後の生活は毎度のことではあるが帰ってきたからといって大きな変化はありません。家に帰っても冬はコタツに入り横になりながらテレビを見ているというよりも聞いていることが多い。

最近では孫たちが遊びに来て家の中を駆け回っているせいか、うるさくしてしょうがないのかわからないが、わずらわしく感じているようだ。



年回りの学院からの帰宅を楽しみにしている葉子が帰宅して一番最初に行くのが仏壇である。鐘を鳴らし「おかあちゃんが早く帰ってくるように」と手を合わせるのが家に帰ってから必ずの日課となっている。母が亡くなった11年が経とうとしているが葉子には知ってか知らずかは判らないが母が帰って来ることを願い手を合わせている。



小泉 葉子 (保護者)

葉子も学院での生活も長く多くの先生や学院の生徒たちに支えられて毎日を過ごしていることが何よりのことかと思えます。

家に来てその生活を見ると学院の先生方の「苦労は頭が下がります。これからもお世話になります。学院の皆さんとの楽しい生活ができるのを見て願っています。



家族へんりー

素心デイセンター

小野寺 諒 (保護者)

小さいころは多動で、歩き始めた「やったー」と喜んでいたら急にいなくなつて道路に飛び出したり、迷子になったり目が離せなくなり「ちゃんとしつけをしてください」しかられたり、しょっちゅう、ころんたり、ぶついていたので、虐待を疑われたりだったので、いつも落ち込んでいました。



そんな諒が、学校を卒業して、そしんで働くようになり、家族も「ホツとした」と言ってくれるようになりました。春になって、



大好きな花、オオイヌノフグリも、そしんに行く途中でみつけ、「ありました」と報告してくれるようになりました。精神的にも今が一番安定しているように思います。これからも家族で、諒をささえていけるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

